

# 新しい大地を創ったイレブン

大瀧村応援大使 宮元 均

大潟村は今年で還暦です。

干拓の歴史を振り返るのに良い機会です。

中国に「水を飲むときは、井戸を掘った人のことを忘れてはいけない」という諺があります。

そこで、今日は、大潟村誕生に汗をかいた先人たちについて皆さんと一緒に振り返ってみたいと思います。

題して「新しい大地を創ったイレブン」です。

# ① 渡部 斧松（わたなべ おのまつ）

- 江戸時代後期、佐竹藩の足輕
- 江戸に出て働いたのち27歳の時帰郷
- 当時、佐竹藩は**新田開拓**を奨励
- 伯父とともに開墾に着手
- 寒風山の滝の近くに湧き水を発見
- 寒風山麓に8kmに及ぶ水路を掘削
- 山裾から八郎瀧へ広がる鳥居長根（現在の**男鹿市弘戸**）500町歩を**開拓**
- 『**渡部村**』が誕生
- 秋田開拓の父



## ② 島 義勇（しま よしたけ）

- 1822年、佐賀藩士の長男として生まれる
- 1856年、藩主鍋島直正の命で蝦夷地を探検
- 1869年(明治2) 新政府の**開拓判官**となる
- **札幌に本府となる都市の建設を決定**  
**碁盤の目の市街**を目指して工事を推進
- 1871年（明治4）12月、**秋田県権令**に任命
- 1872年4月、八郎潟の港湾建設を主目的とした**八郎潟開発事業計画**を発表
- 6月、上申書を大蔵大輔井上馨に建白  
聞き入れられず免官
- 1874年（明治7）佐賀の乱に参加し刑死



### ③ 可知 貫一（かち かんいち）

- 1885年（明治18年）岐阜県生まれ
- 1910年（明治43年）東京大学大農学部卒
- 1918年（大正7年）農商務省技師、**米騒動**
- 1923年（大正12年）食糧増産対策として  
**八郎潟干拓計画立案（関東大震災で中止）**
- 1933年（昭和8年）わが国初の国営事業所の  
所長として淀川上流の**巨椋池干拓着工、  
昭和15年に完成、700haを開田**
- 1936年（昭和11年）京都大学教授



## 可知案 計画略図



## 可知貫一が発明した円筒分水工



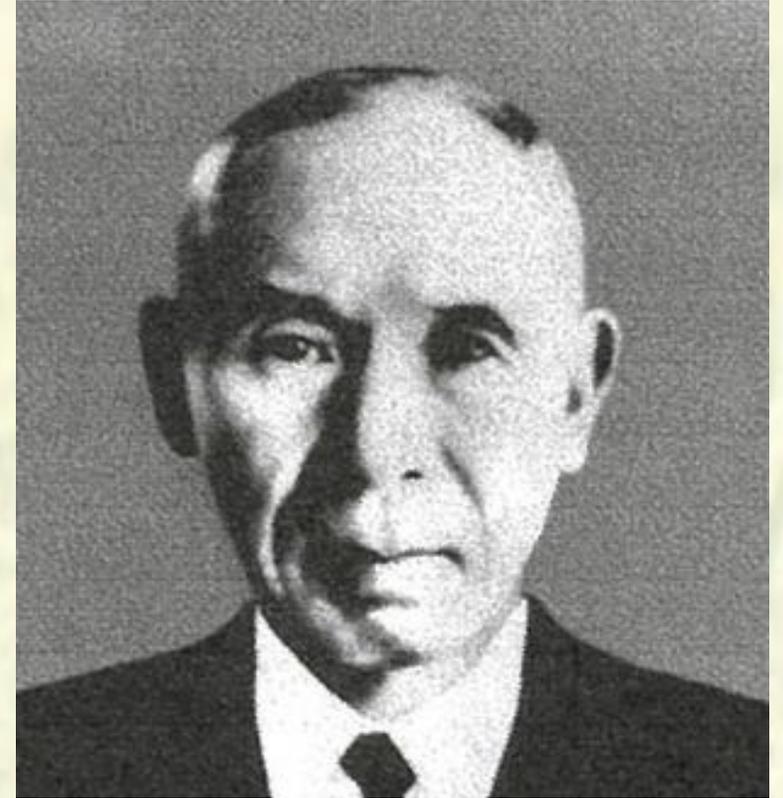
## ④ 師岡 政夫（もろおか まさお）

- 山形県出身、東大農学部卒、卒論は干拓
- 農林省入省、農業土木HB「干拓」部分執筆
- 昭和7~12年、国営巨椋池干拓事業所勤務  
可知貫一所長の下で干拓事業に従事
- 昭和16年戦時統制から食糧自給強化のため  
農地開発営団が設立され開墾・干拓の調査
- 昭和17年に「八郎潟全面干拓案」を完成
- 干拓案は無血の国土拡張案として歓迎
- 同年、占領下のジャワへ水利技術者として派遣
- 戦局が厳しくなり干拓案は実現しなかった



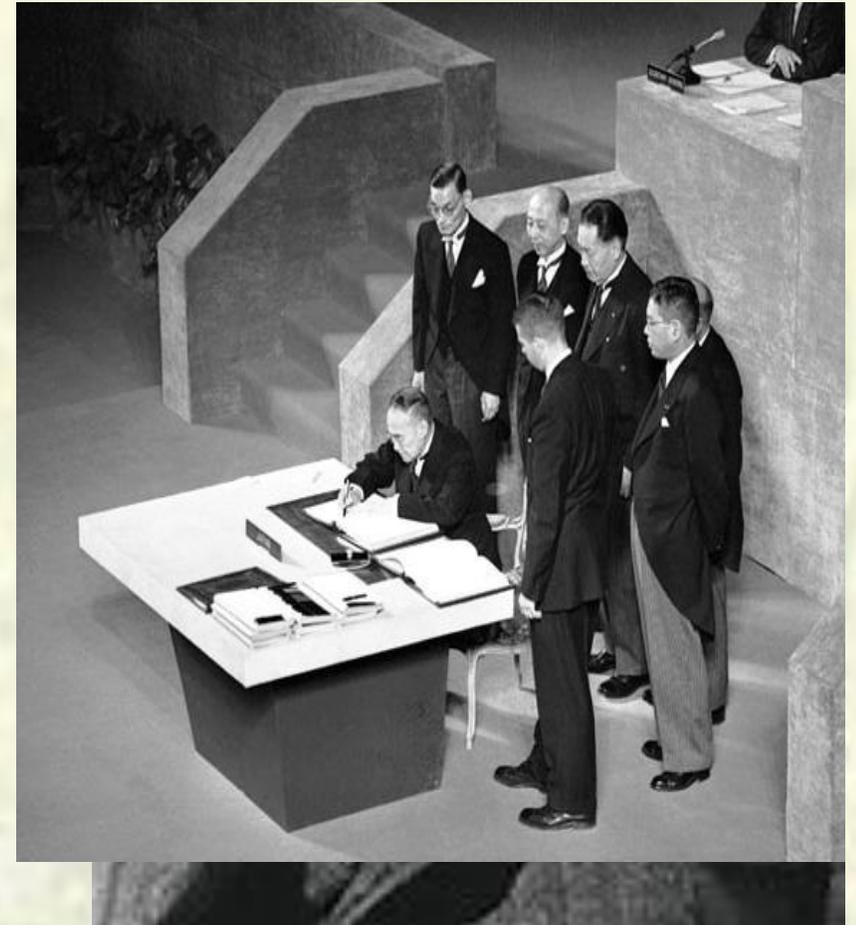
## ⑤ 二田 是儀（ふただ これのり）

- 山形県生まれ、旧名・工藤亮吉
- 1921年（大正11年）東大印度哲学科卒
- 翌年、**天王村を開拓した二田家に入籍**
- 義父二田是儀（初代）は我が国最初の代議士
- 天王村（現・潟上市）村長・秋田県議（3期）  
衆議院議員・天王町長を歴任
- **昭和8年八郎潟河口の水害防止のため**  
**「八郎潟河口改修期成同盟会」を結成**
- 昭和17年、農林省の師岡らの調査を支援
- **昭和28年「八郎潟利用開発期成同盟」を結成**



## ⑥ 吉田 茂（よしだ しげる）

- 1878年（明治11年）高知県生まれ
- 1906年（明治39年）7月、外務省入省
- 1931年 駐伊大使、1936年駐英大使
- 1945年（昭和20年）外務大臣
- 1946年～1954年 2度、総理大臣に就任
- **1950年オランダからの技術協力案件調査**
- 1951年サンフランシスコ平和条約調印
- **1953年オランダ干拓技術者の招致諮問**
- （1956年12月、国際連合加盟）



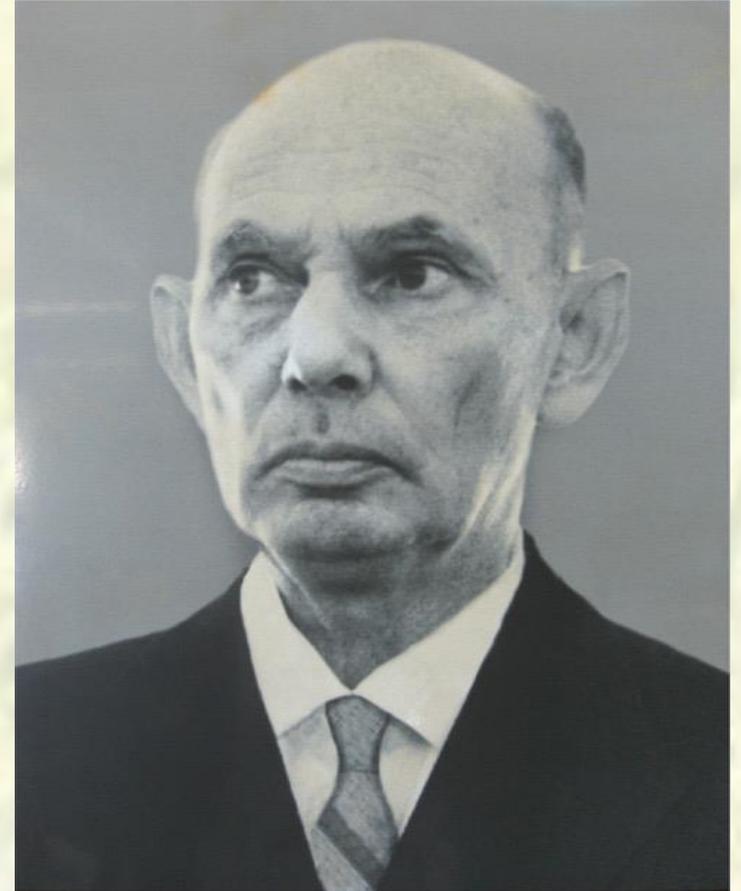
## ⑦ 古賀 俊夫（こが としお）

- 1930年(明治38年) 佐賀県生まれ、
- 九大農農学部農業土木科卒、農林省入省
- 1950年(昭和25) 熊本農地事務局建設部長
- 1951年(昭和26) 農林省開墾建設課長
- **1953年(昭和28) 首相の諮問に軟弱地盤の築堤の専門家の招致を回答**
- **オランダに単身出張しヤンセン教授を人選**
- **教授の国内視察を企画し全行程に随行**
- 干拓協会副会長、干拓院釋俊彰信士



## ⑧ ヤンセン (ピーター・フィリップス・ヤンセン)

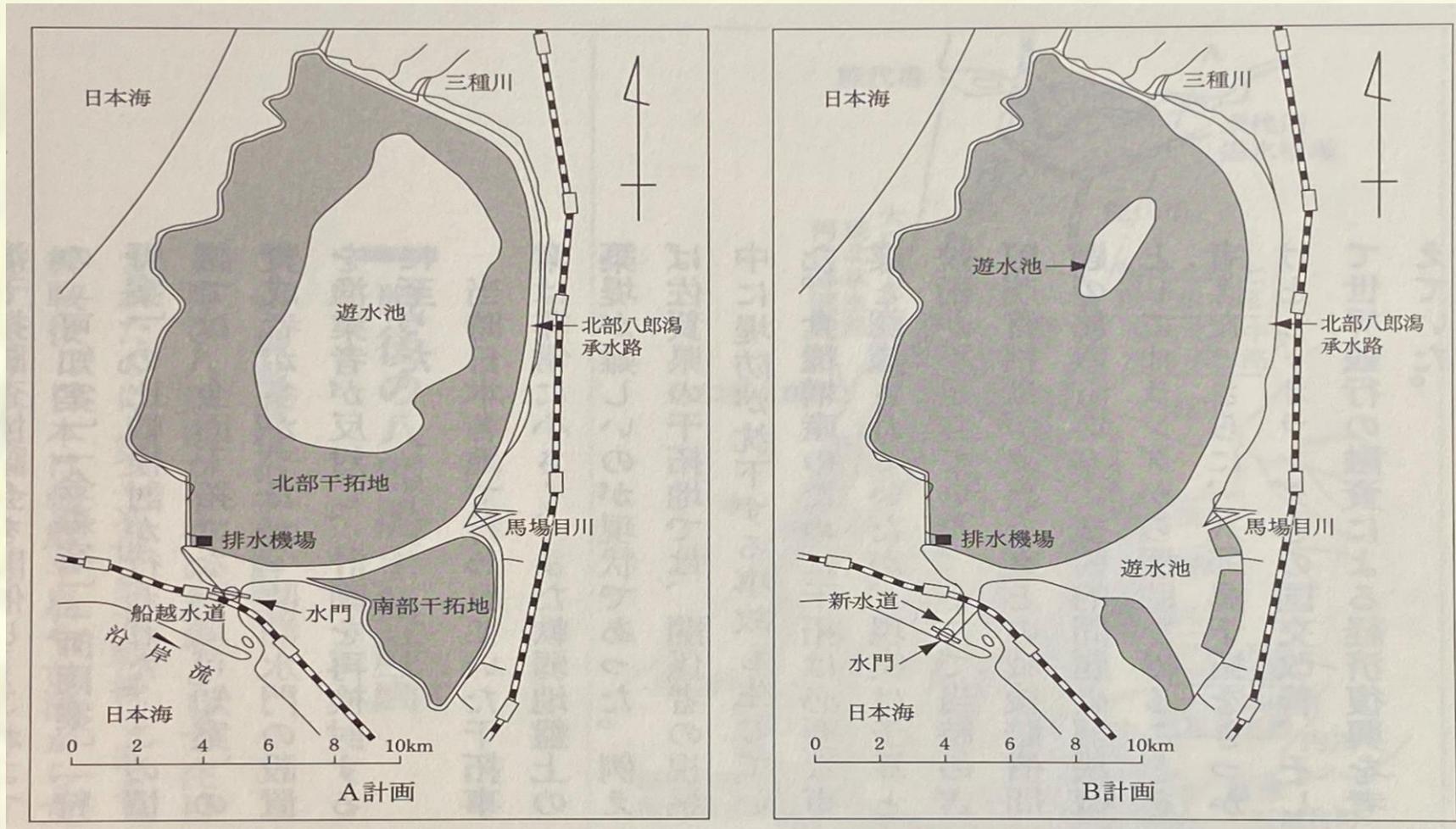
- 1902年 (明治35年) オランダ国ドルドレヒト生まれ
- 1946年 (昭和21年) デルフト工業大学教授
- **1954年 (昭和29年3月) 吉田首相の求めに応じ来日  
40日間わが国の干拓地及び候補地を視察**
- 1954年 (昭和29年7月) **ヤンセンレポート**
- 1956年 (昭和31年3月) オランダ政府代表として  
**技術協力協定締結**
- 昭和31年4月 **協力開始 (延べ12名の専門家が来日)**
- 昭和32年10月 仮報告書提出
- 昭和38年 勲三等瑞宝章受章
- 1982年没 (遺骨は本人の遺志でソイデル海に散骨)



## ④ 師岡 政夫（もろおか まさお） その2

- 昭和25年 印旛沼手賀沼干拓事業所長
- 昭和28年～32年 八郎潟干拓調査事務所長
- 昭和29年 ヤンセン教授視察時に  
可知案を推し、ヤンセン案を引き出す
- 昭和30年 国営八郎潟干拓事業採択に邁進  
反対漁民30名を巨椋池干拓、  
児島湾干拓地に引率、干拓推進に導く
- 八郎小唄、八郎節を作詞





可知案



ヤンセン案

## ⑨ 小畑 勇二郎（おばた ゆうじろう）

- 1906年（明治39年）生まれ
- 小学6年の時、父が夕張で亡くなる
- 大正13年秋田中学卒
- 代用教員、早口村書記を経て  
昭和14年秋田県庁に入庁
- 昭和30年4月秋田県知事（6期24年在任）
- 同年6月、湖岸3千町歩の水田冠水を見て干拓を決意
- 県庁内に干拓推進事務局を設置
- 二田、師岡らと漁業補償交渉をまとめ  
事業採択、予算獲得に邁進



## ⑩ 島貫 隆之介（しまぬき りゅうのすけ）

- 明治39年生まれ
- 昭和9年代用教員を経て県庁
- 昭和30年、商工課長、地方課長を経て  
**八郎潟干拓推進事務局長（4年間）**
- 二田と師岡との共同作戦でマスコミ  
推進議員連盟、河野一郎農相の説得
- 漁業補償金算定の基礎調査、とりまとめ
- 昭和39年6月**村長職務執行者（6期12年）**
- 昭和51年**初代大潟村村長**に当選

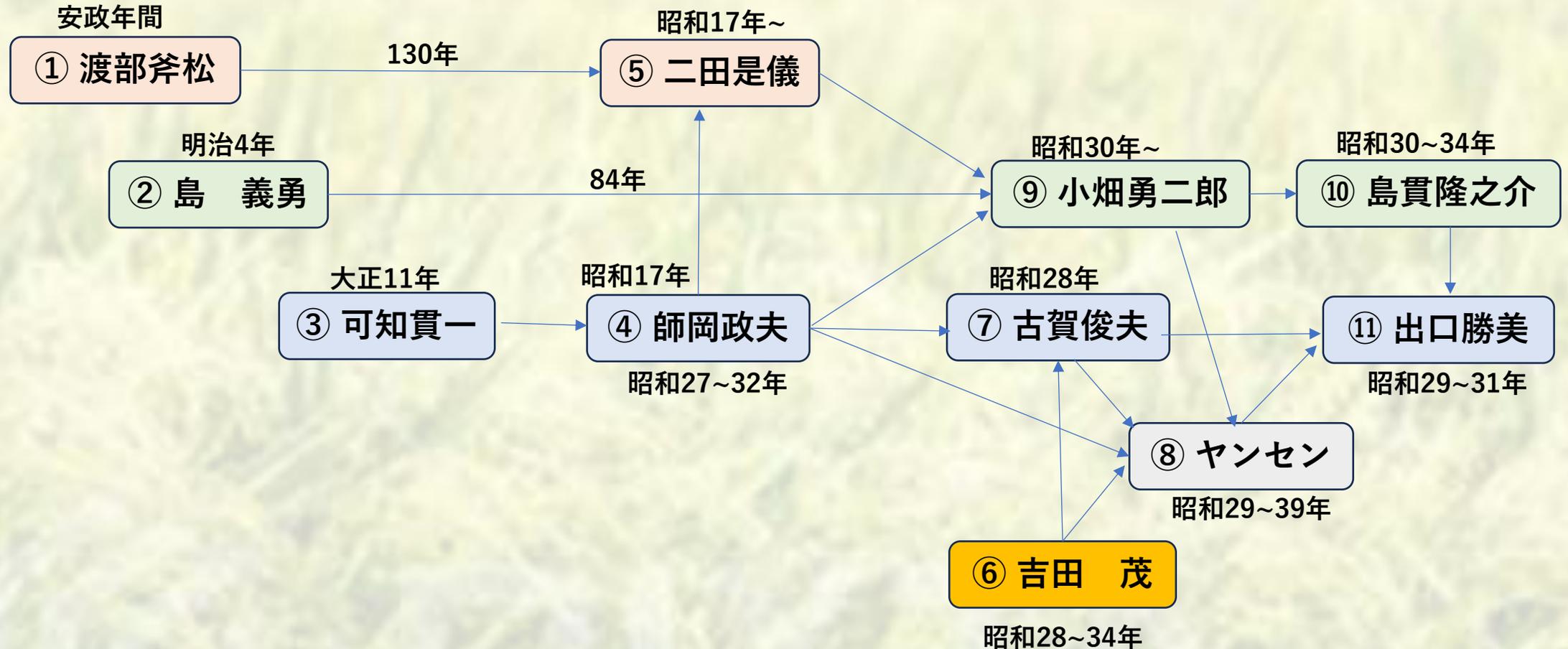


## ⑪ 出口 勝美（でぐち かつみ）

- 大正6年長崎県生まれ、東大農学部卒
- 昭和15年農林省入省
- 昭和30年ヤンセンの勧めでオランダ留学  
（現地で世銀案件→2国間協力案件に調整）
- 昭和31年 八郎潟干拓企画室（計画作成）
- 昭和34年 八郎潟干拓企画委員会事務局
- 昭和39~44年 八郎潟干拓事務所長  
干拓工事を完成させ干陸式を主宰
- のちに東京農業大学教授



# 秋田の大地を創ったイレブン(相関図)



# 八郎瀉干拓の目的と目標

- 主要食糧の自給強化・就農
- 湖岸三千町歩の水害の防止
- 国際社会への復帰のための外交
- **モデル農村の建設**

# おわりに

- 大潟村には立派な八郎潟干拓博物館があります。
- 博物館は観光客のためにあるのではなくて大潟村民自身のためにあるのです。
- 時々、自らの大地の歴史を思い出しながら新たな大潟村の歴史を創って頂きたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

## 新しい大地を創ったイレブン

1. 渡部 斧松	1793年(寛政5)檜山(能代市)生まれ、佐竹藩の足軽、27歳の時、伯父と共に頃鳥居長根(現在の払戸)の開拓に着手 寒風山からの伏流水に着目し、8kmの水路を造り400町歩の開拓を進め、渡部村を作った、秋田の開拓の父
2. 島 義勇	佐賀藩士、幕末に藩主の命で蝦夷地探検、明治になり、北海道開拓。判官として現在の札幌市の整備の基を築く 明治4年初代秋田県権令(知事)、県庁舎の移転を伴う八郎潟開発事業計画を明治新政府の大蔵大輔井上馨に建白
3. 可知 貫一	農林省技師。大正11年八郎潟干拓計画(可知案)作成、関東大震災で焼失、昭和6年わが国初の国営巨椋池干拓事業を担当、岐阜県技師時代に円筒分水工発案、東大農業土木科卒、岐阜県人
4. 師岡 政夫	昭和7年国営巨椋池干拓事業所勤務、可知貫一所長の下で干拓事業に従事。昭和17年八郎潟干拓計画(師岡案)作成、戦況悪化で実現せず。戦後、ヤンセン来日に合わせて八郎潟調査事業所長に着任 八郎節、八郎小唄を作詞、東大農業土木科卒
5. 二田 是儀	明治28年生まれ。二田家に入籍、二田家は代々開墾を業とする篤農家、明治初めから天王村開拓を先導、昭和8年八郎潟河口改修期成同盟会設立、代議士、県議、村長、昭和17年師岡らの調査を支援、昭和28年八郎潟利用開発期成同盟結成、東大文学部卒、山形県出身
6. 吉田 茂	戦後2度にわたり首相、昭和26年サンフランシスコ講和条約締結、国連復帰、愛知用水事業、八郎潟干拓事業を推進
7. 古賀 俊夫	農林省開墾建設課長、首相特使として単独で訪蘭しヤンセン訪日をまとめる、干拓協会副会長、干拓の鬼、干拓院釋俊彰信士、九大農業土木科卒、佐賀県人
8. ヤンセン	ピーター・フィリップ・ヤンセン、オランダ国デルフト工科大学教授、助手フォルカーと国賓待遇で来日、40日滞在し干拓地をくまなく調査、ヤンセンレポート、技術協力、ゾイデル海散骨
9. 小畑勇二郎	秋田中学卒、代用教員、村役場の書記から秋田県庁入り、昭和30年秋田県知事就任時に毎年繰り返す八郎潟3,000haの水害と塩害に心を痛め干拓を決意、八郎潟干拓早期着工と漁業補償の決着に尽力秋田
10. 島貫隆之介	県商工課長から八郎潟干拓推進事務局長、小畑知事に仕えて国営八郎潟干拓事業の採択・予算獲得奔走、村長職務執行者、初代村長
11. 出口 勝美	初代大潟村長ヤンセン視察随行、初代オランダ留学、現地で世銀借款を2国間協力で調整、干拓企画室、八郎潟干拓事業所長(干陸時)、東京農業大学教授、東大農業土木科卒